

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201629		
法人名	有限会社 グループホーム カナリアの家		
事業所名	グループホーム カナリアの家		
所在地	〒857-1151 佐世保市日宇町649-9 (電話) 0956-32-5657		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年9月12日

【情報提供票より】(H19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2階建ての 階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000~33,000円	その他の経費(月額)	200 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有)期間:10年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86歳	最低	75歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加瀬クリニック・佐世保中央病院・宮原病院・大串歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

加瀬クリニックに併設されたグループホームで、入居者・家族の期待と安心感に繋がっている。コミュニケーションと観察を大事にした職員のケアサービスはホームに「明るさと笑い声、笑顔」をもたらし、家族も含めた家庭的な雰囲気にも包まれている。また、改善・気づきを伝えると真摯に受け止め、全職員で検討し、一丸となって取り組まれている。常に前向きな姿勢で臨まれ、施設長、管理者、職員のチームワークも年々強いものとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の要改善項目は全職員で検討され、優先順位、期間、目標など定め、達成状況など評価・分析し改善に繋がれている。特に、個別記録と見直しに至るプロセスは大きく改善され、誰が見ても判りやすいものになっている。日々の観察と介護計画に沿った記録は、職員間の介護計画の共有・見直しに反映され、入居者に即したのものになっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の専門性・役割などに照合した項目を各自で分担評価し、更に全職員で検討して自己評価に繋げている。今回は、日勤職員全員と個々に対話でき、職員各自のケアサービスの目標・姿勢が窺うことができ、職員の意識の高さが感じられた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>カナリアの家・運営推進会議規則を設けられ、必要条項を明記しそれに基づいて開催されており、これまでに2回開催されている。4月に運営推進会議の設置目的とカナリアの家の開設～現在までの流れ、7月に入居者及び活動内容など報告と質疑応答、現況に応じたお知らせなどが主な内容である。今後は趣旨・設置目的に沿った会議が展開されることが予想される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月、メッセージ箋(短冊)に担当職員が入居者の様子やエピソードなど手書きしたものに写真を添えて送付している。また、家族ともなんでも気軽に話せる関係構築が出来ており、気づきや要望なども直接伝えてもらっていると自負されており、双方向性に富んだ対応に努められている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ロケーション、環境の面で開放性に欠ける面もあるが、入居者・家族・職員の地道な努力、特に外出時の出会い頭の「声かけ、挨拶、会話」の継続的取り組みが、今では地域の方から話しかけられるまでになっている。卑近の話に、入居者が散歩の途中で鯉に餌を与えている時、誤って杖を川に落とされそのまま帰られていた。近くの中学生在がその杖を拾い上げ、近くの住民に届け、往診で訪問したクリニックの医師に手渡され、無事持ち主に届け、早速、お礼の電話を中学校にされている。</p>

2. 評価結果詳細

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年開設当初から「地域・入居者一人ひとり・家庭の延長」を意識した環境づくりを理念に謳い、運営体制やサービスの提供のあり方が着実に理念の実践に近づいている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営者をはじめ職員は、入居者・家族・地域との関係づくりにもコミュニケーションを大事にし、それを活かして理念に基づいた支援を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	クリニックに併設した町的要素の強い地域で、地域との関係作りにはこれまでも地道にコツコツと取り組みをされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を「カナリアの家」の現状と照合・検討し、職員間の統一した見解の下、期間・目標を定め評価を活かして、ホームの現状を踏まえた改善の取り組みをされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	これまでに2回開催され、運営推進会議の目的とホームの歩み、利用者やサービスの内容などの報告・質疑応答など会議を通じた交流促進に努められている。次回は10月を予定されている。		

グループホーム カナリアの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者にはホームの活動内容を周知してもらえるよう報告と訪問依頼を機会ある毎に行使されているが、双方向の取り組みに至っていない。また、市の福祉資源の多機能性を十分に、ホーム運営に活用されていない。		介護相談員の派遣事業や地域包括センター、保健所などを相談窓口として活用され、市と連携したサービスの質の向上の取り組みも望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、メッセージ箋に担当職員が入居者の様子やエピソードなど家族の知りたいこと伝えたいことを手書きの文章で報告している。また、家族訪問時の際には、入居者の喜びあふれる写真記録を心がけられている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の関係者と職員の垣根は低く、双方の気づき、要望は会話などを通して伝えられ、常に、報・連・相を意識した対応に努められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内事業所間の訪問交流を通して、入居者と職員の馴染みの関係づくりに繋がられている。また、職員で構成されている『カナリア会』で飲食を通じた職員間の親睦が図られ、離職の低下とチームワーク作りに反映されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設5年目になり、外部研修の情報提供をされており、他の事業所にボランティアで入り、体験を通して見聞を広め、自己研鑽・業務の見直しに反映はされているが、職員の自主性に任せられおり、職員の経験により捉え方の差異がある。		職員の社会的・職務的経験の相違によるケアのバランスをルーティンワークの中で働きながら学習・トレーニングしてケアの統一を図られることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中部2ブロックに所属されており、活発な活動の取り組みがされている。直近では、他事業所の職員グループによる二胡の演奏会での入居者とのふれあい等取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>近年、母体クリニックでは在宅医療に力を入れられ、医療・福祉の両面を範疇に、安心・安定・継続に繋がる馴染みの関係づくりの取り組みをされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>20代～50代までの各年代層の職員で構成されており、入居者との接遇も年代を活かした関係を駆使しながら、入居者の生活層に応じた対応を心がけている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>『コミュニケーション』と『観察』を大事にされており、管理者や職員との対話の中でも何度も登場した言葉である。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>今回、大きく改善された関連項目である。日々の個人記録も観察と介護計画に沿った両面からの記録で、日々の簡単な評価と毎月の見直し、サービス検討会議など手順を踏んだ中での入居者に即した介護計画の作成に努められている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の個人記録と日々の評価が現状に即した介護計画の見直しに反映されている。又、コミュニケーション、観察などを通して必要な関係者との、報・連・相も介護計画の見直し・作成に繋がっている。</p>		

グループホーム カナリアの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者に関しては廃用症候を危惧され、ホームの能力を最大限活かして早期退院へ向けた働きかけや特別な外出支援などの取り組みをされている。地域に関しての取り組みは、在宅医療や運営推進会議を通してこれから具体的な取り組みを勘案される予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関・関係者、家族、職員間の報・連・相は出来ており、入居者・家族に信頼と安心感を提供されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や関係者との話し合いは密にされ、特にターミナルについては同意書を取られている。また、24時間体制で対応可能なども口頭で伝えられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーやその人らしさを尊重した支援を心がけられ、親しさの仲にも節度を持った対応に留意されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の清拭等は、開設当初より続けられている。それに伴う更衣・洗面・整容などを通して入居者の時間の切り替えと同時に入居者の心身の状態把握などでその日の暮らしの支援に繋がられている。		

グループホーム カナリアの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関して、買い物から後片付けまで入居者一人ひとりの能力に応じた係わりを大事に支援されている。又、食事中は楽しい雰囲気を重ね、極力手出しせず、見守りながらさりげない声かけ誘導で、時間がかかっても可能な限り自立摂取に繋がられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に季節に応じて入浴日時が決められているが、要望・状態に応じて可能な限りの支援・対応がされている。また、状況が許せば職員の方から自由な時間の入浴提供の声かけもされているが要望はなく、今のところ習慣化し定着している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や能力を活かして生け花やパッチワーク、工作などの取り組み支援をされており、完成した作品は事業所内の装飾や実用品として役立てておられ、入居者の自信の回復、役割などに繋がられている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昼間の職員体制をなるべく4人になるようシフトを組み、入居者のレベルダウンに備えた生活支援を目指されている。外出の頻度の少ない入居者にも、全員参加の夕食や日帰り温泉など計画され、負担を考慮した支援をされている。又、個別の外出支援も検討されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階階段と廊下の境界に腰高の仕切り戸があり、転落防止のため簡単なストッパー錠が使われているが誰でも簡単に操作でき、出入りは自由である。念のため、鈴など音の出るものが戸に取り付けられており開閉の察知が出来る仕組みである。家族には説明し承諾を得られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練等に関しては定期的取り組みと連絡体制作りは万全であるが、地震、風水害などの自然災害に対する避難場所の確認、連絡関係機関の把握、備蓄品などホームとしての手順、対応策などの取り組みがされていない。		地震、風水害などの自然災害に対する避難場所の確認、連絡関係機関の把握、備蓄品などホームとしての手順、対応策など文章化されることが期待される。

グループホーム カナリアの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的にメニューを作成し、当日、入居者の状態、栄養バランスなど考慮して食材の記入、調達をされている。又、食事の提供量なども入居者一人ひとりの健康状態や制限を把握したもので、記録し調整された提供で栄養・健康管理に繋がられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階の生活の場は共用空間で、ソファーや畳の間など利用して集団の中でも独り居を選べる設定である。また、換気や音量、採光などにも配慮されており、入居者の動線・視線の遮断にも配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室からは入居者一人ひとりの状態や生活暦が感じられる。今後も入居時には馴染みの物品の持ち込み支援で入居者のリロケーションダメージの緩和と安心・安定に繋がる支援を目指されている。		